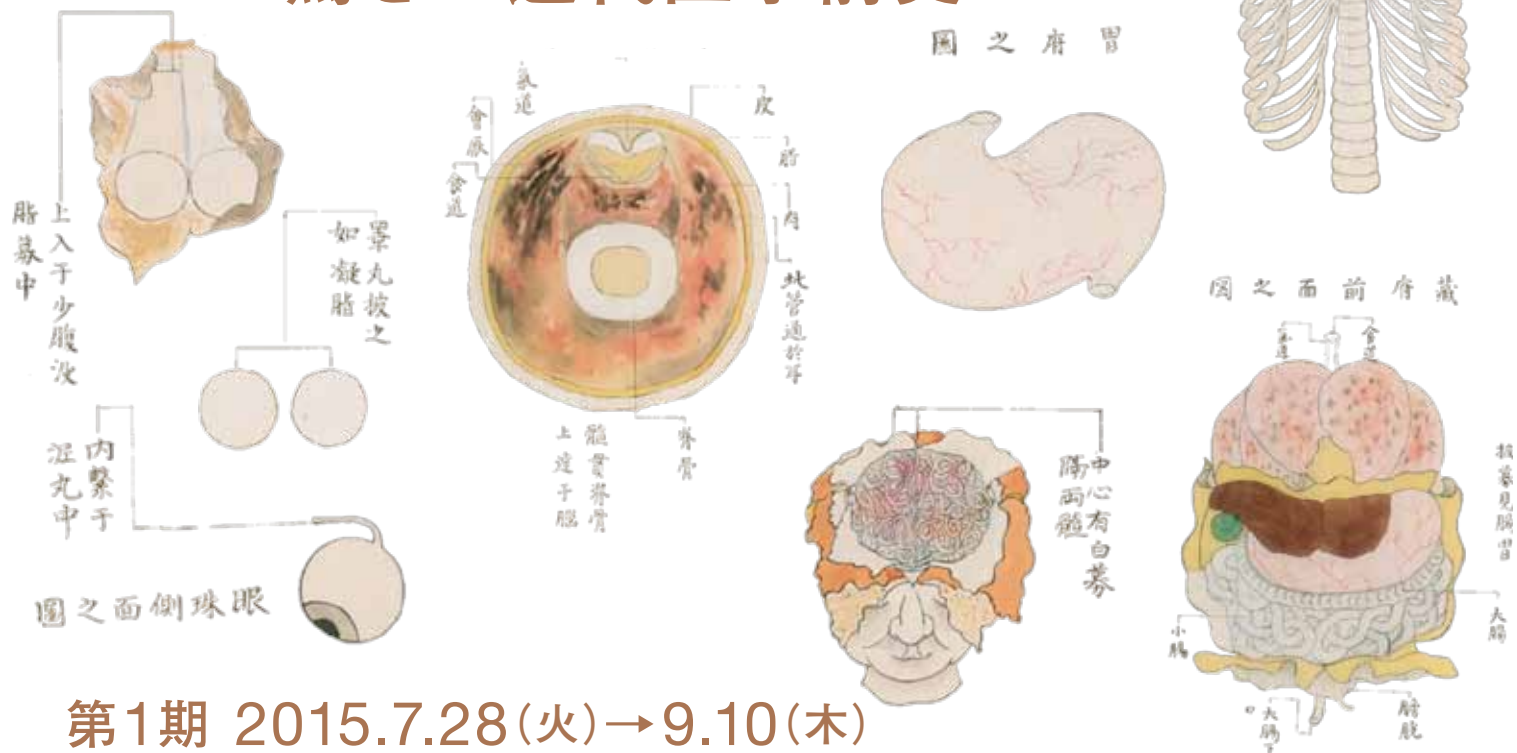




解体新書が 生まれた頃

驚きの近代医学前史



第1期 2015.7.28(火)→9.10(木)

東北大学附属図書館医学分館[入場無料]

解体新書が生まれた頃——驚きの近代医学前史

日本の医学は伝統的に中国の伝統医学に負ってきた。16世紀にはポルトガルをはじめとする南蛮医学が、また17世紀初めからはオランダから西洋医学(蘭方)が伝わり、やがて蘭方に対し中国伝統医学を漢方と呼ぶようになった。『解体新書』に象徴される新しい西洋医学により古くさい漢方が駆逐されたというようなイメージがあるかもしれないが、江戸時代には漢方医のほうがはるかに多く、漢方と蘭方が併存していたことも留意すべきであろう。本展示では、医学分館所蔵の医学書によって江戸時代の医学小史をたどり、あわせて仙台における医学教育の展開を跡付ける。

第1部 | 中国医学の受容



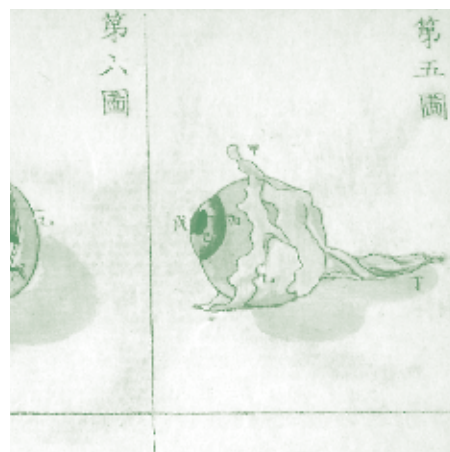
黄帝内径・素問

第2部 | 腑分けから外科治療へ



解体新書

第3部 | 蘭方医学の普及



眼科新書

第4部 | はやり病(疫病)への対応



新撰病草紙

第5部 | 医の啓蒙と普及



医道日用綱目(重宝記)

仙台の医学



仙台藩医学校蔵書目録

[アクセス]

○バス: JR仙台駅西口バスポール10番・16番「交通公園循環」「白沢車庫」「作並」行きに乗り、「大学病院前」下車、徒歩2分。

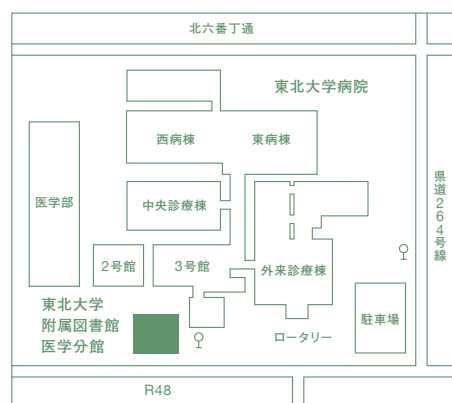
○地下鉄: 「仙台駅」より「泉中央駅」行きに乗り、「北四番丁駅」下車、徒歩15分。

※駐車場がありませんので、お車での来館はご遠慮ください。

[お問い合わせ]

東北大学附属図書館医学分館

仙台市青葉区星陵町1-1 TEL 022-717-7973



第2期開催 2015.11.12(木)→12.10(木) レオナルド・ダ・ヴィンチ「解剖手稿」ほか(予定)